

# ケイトリン通信

平成30年  
(2018年) 6月1日  
明石市立明石商業高等学校  
明石市魚住町長坂寺1250  
電話番号 (078) 918-5950  
発行責任者 西 真未

## ケイトリン 十二単の着付け体験!

2年1組で学ぶ、オーストラリアから来た、ケイトリン・ウチヤさん。今回

は、明石公園の西にある明石市立文化博物館で十二単の着付け体験しました。6

月のイベントとして9日(土)、24日(月)の午後

体験が出来ます。皆さんも体験して、ケイトリンと話題を共有してみませんか。

5月27日(水)、明石市立文化博物館にて十二単の着付け体験をしました。

日本でもなかなか十二単の着付け体験は出来ない中、留学生が貴重な体験を

することが出来ました。文化博物館のスタッフの

方々も一生懸命着付けをしてくださり、着物の説明や手に持っている扇子などの



持ち方から立ち振る舞いまで、詳細な説明を受けながら着付けることが出来ました。

日本の文化の一端を経験し、ますます日本に興味を持って欲しいと思うと同時に、学校で勉強している古典などの教科についても興味を持ってくれればと思っています。



### 十二単とは

平安時代の女性用の装束むようぞくで、着物の重さは全部で約20kgあり、四季に応じた名称の「かさね」を用いた。また、宮中では女性の「束帯 そくたい」に当たる装束として「物もの(の)具(ぐ)装束」が平安後期まで存在したが、女性が公儀の場に出るのを嫌う風潮もあって、着用される機会が減り廃された。十二単の色目(いろめ)については主に季節感を取り入れた組み合わせになっていて、春夏秋冬、または植物や色単体のグラデーションによりおびただしい数の種類があり、着用の季節や行事が厳密に定められていたという。 #ikiより抜粋)

# ケイトリン通信

平成30年  
(2018年) 6月1日  
明石市立明石商業高等学校  
明石市魚住町長坂寺1250  
電話番号 (078) 918-5950  
発行責任者 西 真未

## ケイトリン 十二単の着付け体験!

2年1組で学ぶ、オーストラリアから来た、ケイトリン・ウヅラさん。今回

は、明石公園の西にある明石市立文化博物館で十二単の着付け体験しました。6

月のイベントとして9日(土)、24日(月)の午後にも、十二単と鎧の着付け

体験が出来ます。皆さんも体験して、ケイトリンと話題を共有してみませんか。

5月27日(水)、明石市立文化博物館にて十二単の着付け体験をしました。

日本でもなかなか十二単の着付け体験は出来ない中、留学生が貴重な体験を

することが出来ました。文化博物館のスタッフの

方々も一生懸命着付けをしてくださり、着物の説明や手に持っている扇子などの



持ち方から立ち振る舞いまで、詳細な説明を受けながら着付けることが出来ました。

日本の文化の一端を経験し、ますます日本に興味を持って欲しいと思うと同時に、学校で勉強している古典などの教科についても興味を持ってくれればと思っています。



## 十二単とは

平安時代の女性用の装束むようぞくで、着物の重さは全部で約20kgあり、四季に応じた名称の「かさね」を用いた。また、宮中では女性の「束帯 そくたい」に当たる装束として

「物もの(の)具(ぎ)装束」が平安後期まで存在したが、女性が公儀の場に出るのを嫌う風潮もあって、着用される機会が減り廃された。十二単の色目(いろめ)については主に季節感を取り入れた組み合わせになっていて、春夏秋冬、または植物や色単体のグラデーションによりおびただしい数の種類があり、着用の季節や行事が厳密に定められていたという。

※ i k i より抜粋)

# ケイトリン通信

平成30年  
(2018年)6月1日  
明石市立明石商業高等学校  
明石市魚住町長坂寺1250  
電話番号 (078) 918-5950  
発行責任者 西 真未

## ケイトリン 十二単の着付け体験!

2年1組で学ぶ、オーストラリアから来た、ケイトリン・ウチヤさん。今回

は、明石公園の西にある明石市立文化博物館で十二単の着付け体験しました。6

月のイベントとして9日(土)、24日(月)の午後にも、十二単と鎧の着付け

体験が出来ます。皆さんも体験して、ケイトリンと話題を共有してみませんか。

5月27日(水)、明石市立文化博物館にて十二単の着付け体験をしました。

日本でもなかなか十二単の着付け体験は出来ない中、留学生が貴重な体験を

することが出来ました。文化博物館のスタッフの

方々も一生懸命着付けをしてくださり、着物の説明や手に持っている扇子などの



持ち方から立ち振る舞いまで、詳細な説明を受けながら着付けることが出来ました。日本の文化の一端を経験し、ますます日本に興味を持って欲しいと思うと同時に、学校で勉強している古典などの教科についても興味を持ってくれればと思っています。



**十二単とは**  
平安時代の女性用の装束むようぞくで、着物の重さは全部で約20kgあり、四季に応じた名称の「かさね」を用いた。また、宮中では女性の「束帯 そくたい」に当たる装束として「物もの(の)具(ぐ)装束」が平安後期まで存在したが、女性が公儀の場に出るのを嫌う風潮もあって、着用される機会が減り廃された。十二単の色目(いろめ)については主に季節感を取り入れた組み合わせになっていて、春夏秋冬、または植物や色単体のグラデーションによりおびただしい数の種類があり、着用の季節や行事が厳密に定められていたという。 #ikiより抜粋)